

長崎の林業

小曾根星堂書



令和元年度 長崎県特産品新作展優秀賞受賞 海石榴櫛（つばきくし）

4

目次

● 林政だより	令和2年度林政課・森林整備室の予算概要	2～3
● 特集記事	株式会社 長崎林業 坂本久良さん	4～5
● 林業普及だより	髪と頭皮に、しなやかな強さを。 ～「海石榴櫛（つばきくし）」の紹介～	6
● 地方だより・県北	平戸市田平南小緑の少年団のヤマザクラ記念植樹 松浦市ウッドスタート宣言調印式	7
● 地方だより・対馬	登山道環境整備 in 姫神山砲台跡	8
● 林業団体情報	人と自然をつなぐ技術研修会を開催しました	9
● センターだより	ツバキ講習会 ～剪定方法と研究成果報告～	10
● 紹介コーナー	大工道具の曼陀羅屋（まんだらや）	11
● 森林・山村多面的機能発揮対策普及セミナー		12



2020
No.775

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

FREE

ご自由にお持ち下さい。

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税により発行しています。

「長崎県庁」のホームページ「広報」→「県の発行物」からもご覧いただけます。

林政だより

令和2年度林政課・森林整備室の予算概要

○森林・林業の現状と本県の取り組み

本県の民有林面積は、218千haで県土面積の53%を占めます。このうち、約4割の91千haはスギ・ヒノキを中心とした人工林であり、さらにその半数が50年生を超え、森林資源の利用期を迎えています。

県は、こうした森林資源を活用した、林業所得の向上と林業従事者の確保のため、令和7年度までに県産材の生産量を倍増、1人1日あたりの木材生産性5.0m³、林業専門作業員年収500万円等を目標に掲げ、市町・関係団体と一体となって事業を推進しています。

また、県民の安全・安心のため、災害を未然に防止することが大変重要であり、補正予算等も活用しながら計画的な山地災害危険地区の解消に努めています。

◎林務関係当初予算の概要

令和2年度の林務関係の一般会計当初予算は、89億78百万円となります。

主要事業

1. ながさき森林環境保全事業

(予算額：190,565千円)

森林の持つ公益的機能の維持発揮のため、「環境重視」「県民参加」の視点で、緊急的な森林の整備や森林ボランティア等による森林保全活動を支援します。



森林・環境学習の状況（壱岐市）

2. 林業成長産業化総合対策事業

(予算額：518,867千円)

林業の成長産業化を目指し、川上から川下までの連携によるコストの一体的削減を図るべく、木材の安定供給のための条件整備や木材利用の拡大・促進、木材産業の体制の整備などを支援します。今年度の主な事業内容は下記のとおりです。

- (1) 木材加工流通設備等
- (2) 搬出間伐
- (3) 路網整備（森林作業道）
- (4) 路網整備（林業専用道）
- (5) 高性能林業機械
- (6) 林業の担い手育成
- (7) 松林資源健全促進



令和元年に整備した木材加工施設（諫早市）

3. ながさき木ウッドチェンジ事業（新規）

(予算額：4,664千円)

昨年まで実施してきたながさき県産材流通拡大事業の後継事業です。

新規事業では、県産材の需要拡大・流通拡大を図るため、これまで木材利用が進まなかった民間の事務所や商業施設での需要拡大や製品輸出への取組支援等を行います。

4. 森林環境譲与税事業

(予算額：40,393千円)

「新たな森林管理システム」を推進するため、市町への支援及び森林整備の担い手となる林業事業体の確保・育成等を実施します。



新たな森林経営管理制度等に係る研修会（県庁）

5. 森林環境保全整備事業(造林公共)

(予算額：1,096,361千円)

森林の有する公益的機能の維持増進を図るためには、健全な森林を育てる必要があります。そのための造林や間伐等の森林整備を支援します。



森林整備状況（対馬市）

6. 森林環境保全整備事業(林道公共)

(予算額：306,918千円)

森林資源の一体的・効率的な整備を促進するために必要な森林管理道の整備を行います。



木材の搬出状況（松浦市）

7. 治山事業（予算額：2,760,645千円）

梅雨前線や台風による集中豪雨、火山噴火等を起因とした山地災害から県民の生活を守るため、施設整備及び森林整備を実施します。

また、山地災害危険地区等の情報を住民に周知するなど、ソフト対策を含めた治山事業を推進します。



白木地区緊急予防治山事業（長崎市）

◎林務関係補正予算の概要

林務関係2月補正（経済対策）予算は、14億円となります。

主要事業

1. 合板・製材生産性強化対策事業

(予算額：395,183千円)

木材製品の国際競争力を高め、原木供給の低コスト化等を通じた体質強化を図るため、間伐材の生産等を実施します。

2. 県営林事業

(予算額：214,335千円)

森林の有する公益的機能が十分発揮されるよう、適正な森林整備等を実施します。

3. 治山事業

(予算額：514,920千円)

豪雨災害等、激甚化する災害に対する事前防災・減災のため治山事業を実施します。

4. 治山事業(ゼロ国庫債務負担)

(予算額：220,500千円)

令和2年度の治山事業を債務負担により、前倒し発注し、景気対策を実施します。

(林政課 計画調整班)



【特集記事】

株式会社 長崎林業 坂本 久良さん

株式会社 長崎林業の坂本久良さんをご紹介します。

坂本久良さんの略歴

坂本さんは熊本県芦北町の出身で御年69歳です。芦北町は、かつては炭鉱で使用するアカマツの坑木生産が盛んだったと懐かしそうに話されました。芦北農林高校を卒業後、昭和44年に林野庁熊本営林局（現：九州森林管理局）に入り、平成23年に退職するまでの42年間の長きにわたり、各営林署で勤務されました。営林署に入るきっかけは、芦北農林高校出身の多くの先輩が営林署に就職していたことと、親戚もいたためだそうです。営林署に就職後、42年間の公務員生活の中で7回転勤、長崎は対馬を含め26年間在職されました。

長崎営林署勤務時代の一番の思い出は、大村市萱瀬山国有林からケヤキ材をヘリコプターで集材したことです。当時は木材価格も高く、福岡や人吉の銘木市場で20万円/m³以上で取引されました。スギやヒノキの素材生産価

格が2万円にも満たない現在の状況と比べると、日本経済が右肩上がりで林産物を有利に取引できた時代だったに違いありません。隔世の感を禁じ得ません。そして、平成23年に長崎署を退職後、株式会社 長崎林業に就職されました。

株式会社 長崎林業の設立の経緯

読者の皆さんの中には、この会社の名前を知らない方もおられることでしょう。なぜなら、民有林を対象とする森林組合とは異なり、国有林の事業受託を仕事の対象としてきたからです。会社設立の経緯は以下のとおりです。

平成16年2月、国有林野事業改善計画の最終年度を迎え、受皿となる足腰の強い事業体を目指し、長崎森林管理署の指導のもと、事業協同組合を発展的に解消し、株式会社 長崎林業が設立されました。会社は、国有林の素

材生産や保育間伐及び下刈りなどの造林事業を実施してきましたが、平成22年から林業公社林、平成23年から県営林の事業なども受託するようになりました。

全体として年間1万㎡を超える素材生産と600haの森林整備を行っています。

会社の課題

株式会社 長崎林業には、2つの課題があると坂本さんは話されました。

①日給制であること

現場作業員が21名いますが、日給制であることです。安定した雇用関係を構築するためにも固定給制度を採用したいのですが実現できずにいます。その原因として、雨天時には現場の仕事ができないことにあります。足腰の強い林業を確立するためにも雇用を安定化することが急務ですが、雨降り対策を手当てできないことが構造的な障害となっています。

②林業労働災害の危険

林業労働は足場の不安定な斜面で作業をする機会が多く、災害の発生率や被害の大きさの両面で他の産業よりも危険な労働です。坂本さんが入社後、重大災害になりかねない事故が2件発生しました。ひとたび事故が発生すれば、本人はもとより、頼りとする家族や会社にとっても大きな損失となるため、労働災害の未然防止は大きな課題であり、安全教育の大切さを痛感しています。

労働安全指導員としての活動

坂本さんは九州国有林林業生産協会から依頼され、労働安全指導員をされています。国有林の受注事業での労働災害が多く発生しているからです。一歩間違えば大きな災害になりかねません。中でも伐倒作業に起因する災害が多く、最近では高性能林業機械の転落事故も見られるため、九州の各森林管理署を単位に労働安全指導員を配置して各現場をパトロールし、安全指導を行っています。坂本さんは、平成29年からこの安全パトロール・安全指導を実施しています。幸いなことに、その後大きな災害が発生していないことは喜ばしい限りです。

現場では、リスクアセスメントの実施や毎朝のミーティングの中で仕事の割振り、安全注意事項を皆で確認しながら作業をしています。



現場の安全パトロール・安全指導の状況

取材を終えて

林業労働災害の防止は古くて新しい課題です。高性能林業機械の普及により転落事故等新しい形の林業災害も発生しているようです。安全な現場作業に奮闘される坂本さんのますますの頑張りを期待します。



取材の様子

(NPO法人地域循環研究所)

林業普及だより

髪と頭皮に、しなやかな強さを。 ～「海石榴櫛（つばきくし）」の紹介～

新上五島町には、至る所にツバキが自生しており、椿油だけでなく材を活用した木工品の製造・販売も行われています。

「忠木工房（ちゅうもっこうぼう）」の犬塚忠生さんが作る「海石榴櫛（つばきくし）」は、新上五島町に自生しているツバキで作られた櫛です。「令和元年度長崎県特産品新作展」で民芸日用品の部で優秀賞に選ばれました。



犬塚さんは新上五島町で、ツバキ材などを活用して木工作品を制作している林業研究グループ「新上五島町椿木工技術振興会」の会長をしています。同会で木工の技術を磨き、平成29年に自身の工房を立ち上げ、お箸やスプーンなどを作っています。

約1年前には櫛づくりにも取り組むようになりました。櫛を作ろうと思ったのは、古くから日本にある「つげ櫛」が椿油で仕上げられていることを知り、本体も上五島自生のツバキ、加工も上五島、仕上げも上五島産の椿油といった「Made in Kamigoto」の櫛を作ってみようと思ったのがきっかけです。奈良時代の書物に、ツバキ油のことを「海石榴油」と記されていることから「海石榴櫛」と名づけました。この作品の難しいところは、細かい櫛の歯を一本一本整えることです。とても手間がかかりますが、その分、手作り感が出て温かみを感じます。

犬塚さんは、今回の受賞と一緒に活動している「新上五島町椿木工技術振興会」の会員たちへの刺激になり、他の会員たちもこのような作品展などに応募して、作品のPRに繋がればと期待しています。



他にも箸置き、ピアス、カスタネットなどの作品を作っており、その作品は、新上五島町のお土産物屋だけでなく、長崎市のお土産物セレクトショップ「もてなしや」でも販売されています。その他注文に応じられるそうですので、是非、お問い合わせください。



【問い合わせ先】

忠木工房

(ちゅうもっこうぼう)
犬塚忠生

TEL: 090-7393-1945
虎屋HP(ネットショップ)
<http://goto-toraya.ocnk.net/product-list/11>



(五島振興局 林務課)

地方だより

平戸市田平南小緑の少年団のヤマザクラ記念植樹

令和2年2月5日、平戸市田平南小緑の少年団の4年生10人が、田平町下寺地区の耕作地周辺の斜面に、ヤマザクラの苗木20本の植樹を行いました。

田平南小緑の少年団は、平成29年度に発足し、全校生徒（58人）が緑の少年団の団員となり、校内の花の植樹や道の駅にプランターを贈る緑化活動や地域住民と一緒に自然観察会を行うなど積極的に活動しています。

今回、植樹したヤマザクラには、下寺地区の一本桜の老木「田端の桜」の子孫を残すため苗木を育てたものも含まれており、次世代の苗木を次世代の子どもたちが植え、子ども達の郷土愛をはぐくもうと、浦田副団長が呼びかけました。

今後も地域とのふれあいの活動を継続し一緒に満開の花見をすることを楽しみに、記念植樹に汗を流しました。



地域の指導者による植樹指導



地域住民とふれあいながら植樹活動

松浦市ウッドスタート宣言調印式



松浦市ウッドスタート宣言調印



調印式出席者の記念撮影

令和2年2月22日2時22分の2が並ぶ記念する日時に、松浦市ウッドスタート宣言書に友田市長と東京おもちゃ美術館の多田館長が調印しました。

長崎県では第1号、全国では53番目の宣言自治体となりました。

ウッドスタートとは、子どもの頃から地元産の木を活用したおもちゃに親しむことで、将来、自然・郷土を大切に考え行動できる人を育てる取組みです。市は、今年1歳になる市内の子ども129人を「木育キッズ隊員」に、その保護者を「木育推進員」に認定し、市のヒノキ材を使った木製パズル・コースターを渡すこととしています。

調印式には、市内の子供連れ親子70名が参加し、会場に設置された木のおもちゃコーナーなどで遊び、楽しんでいました。

今後、地域材の需要拡大が期待されます。

(県北振興局 林業課)

地方だより

登山道環境整備 in 姫神山砲台跡



姫神山砲台跡で集合写真

対馬林業研究会活動紹介

対馬林業研究会（対林会）は森林・林業に携わる人たちで構成されています。

昭和52年に発足以来、森林の整備や木製品の公共施設への寄贈などの活動を行っています。今回は、令和2年1月12日（日）に対林会が対馬の数ある観光地のひとつである姫神山砲台跡に続く登山道で行ったボランティア活動について紹介します。

雑木を伐採して道を明るく

姫神山砲台跡は明治33年から34年にかけて国防及び大陸への最前線基地として築造された、対馬最大規模の砲台跡です。遺構の保存状態がよく、周囲の自然と調和しており、その美しさから観光客に人気のある観光スポットです。しかし、雑木が道沿いに生い茂ることで日差しが遮られ、登山道が薄暗い状況でした。

そのような状況をみた会員から声があがり、今回のボランティア活動が実施されました。

チェーンソーやのこぎりを使って、日差しを遮っている雑木を伐採・片付けをすることで、登山道が明るくなりました。また、三浦湾を眺めることができる場所では、景観を邪魔していた草木を伐採することで、見晴らしが確保されました。

「観光客が快適に登れるようになったのではないかと参加者も満足そうでした。今回の活動は、対馬の観光振興に寄与できたのではないかと思います。

対馬振興局林業課は、これからも対林会の活動を支援していきます。



活動の様子



姫神山砲台跡の登山道から眺める三浦湾

（対馬振興局 林業課）

人と自然をつなぐ技術研修会を開催しました



はじめに

(一社)長崎県林業コンサルタントは昭和42年に設立され、公益事業として森林・林業に関する技術援助、教育及び情報の提供、調査研究、研修会等を実施してまいりました。研修会に関しては、一時中断がありました。平成18年度から再開し、今年で14回目を迎えました。

研修会は新工法や技術基準改訂等に伴う勉強会が主であり、技術者のスキルアップが目的です。受講生は国・県市町の森林林業技術者、県内外の調査設計コンサルタント技術者、そして一般の方にも門戸を広げています。また、この研修会は森林分野CPDに認定され、終了後には受講証明書が発行されます。

これまで講師をされた先生の中には、複数回にわたり講演をお願いし、引き続きご指導をいただいている方もいます。

令和元年度研修会

近年の山地災害の多発から災害関連を2題、設計関連1題、森林調査関連1題の計4題を、2月7日10時より、諫早市のホテルセンリュウで開催致しました。当日は雨に見舞われましたが、講師も含め76名の参加がありました。講演内容をご紹介します。(一部題目を簡略)

①台風19号による山地災害の現況

斜面災害が専門の森林総合研究所浅野先生に東日本の被害状況と崩壊形態、特に九州北部豪雨との相違点などをお話いただきました。

②九州北部豪雨災害への取組

九州森林管理局赤星治山課長様に災害発生時の初動対応や関連自治体等との連携、調査計画から実施設計への地区優先度の策定等をお話いただきました。この目的は、昭和57年の長崎大水害当時の経験者が少なくなり、特に実務が浅い技術者に何時発生するか分からない山地災害に備えて、日常から意識して業務に従事していただくためです。

③落石対策工の設計法

相和コンサルタントの技術顧問である勘田先生に落石対策便覧の改訂に伴う設計業務での注意点を中心にお話いただきました。

④ドローンによる松枯れ調査手法

静岡県森林・林業研究センターの星川先生は民生品ドローンを使用した松枯れ調査の手法を確立され、昨年森林学会でも発表されました。特殊な植生調査用カメラも必要なく、20万円程度のドローンでもでき、調査結果の精度は83%と高く、調査日数や経費を従来の8割程度削減できるとお話いただきました。

おわりに

本会のスローガンは「未来のために人と自然を技術でつなぐ」安全・安心の環境づくりです。皆様とともに築きあげて行きましょう。

((一社)長崎県林業コンサルタント)

センターだより

ツバキ講習会 ～剪定方法と研究成果報告～



写真1 講習会の様子（左：座学 右：現地講習）

はじめに

これまで農林技術開発センターでは、地元の要望に応じてツバキに関する講習会を開催してきました。

今年の1月には行政や地元のツバキ産業関係者で構成する五島列島ヤブツバキ振興協議会主催でツバキ剪定講習会が開催され、当センターの研究員が講師を務めましたので紹介します。

講習会

今回の講習はツバキ実の収穫量の増加を目的としており、多くの方にツバキについて学んでいただくため、初めて複数の地区で開催しました。講習会は1月28日から1月31日まで五島市内の3地区と新上五島町内の4地区で行い、60名以上の参加がありました。内容は、まず座学でこれまで長崎県が中心となって取り組んできたツバキの新商品開発や生産性向上のための研究成果と、剪定における基本的な考え方やツバキの樹形を誘導する方法について説明しました。座学の後には現地に移動し、剪定時の注意事項や具体的にどういった枝を剪定するのか実演指導しました（写真1）。

参加者からはこのような講習会を今後も開催して欲しいという要望もあり、当センターは引き続き要望に応じていきたいと思っております。

おわりに

長崎県ではツバキの育成マニュアルも発行しておりますので、必要な方は当センターもしくは五島振興局林務課までお問い合わせください（写真2）。



写真2 ツバキの育成マニュアル

【問い合わせ先】

農林技術開発センター 森林研究部門
電話番号：0957-26-4291

（農林技術開発センター）

紹介コーナー 大工道具の曼陀羅屋 (まんだらや)



大工道具の曼陀羅屋 (まんだらや)

代表者: 手柴 正範

電話: 0956-46-0903

mail: cbk99780@pop06.odn.ne.jp

公式HP: www2.odn.ne.jp/mandaraya/
キーワード「まんだらや」で検索

大工道具の曼陀羅屋は鉋、鑿、天然砥石など大工道具の販売を行うお店です。店内には天然木を使う家具工房を営み、鉋を使って39年、販売27年の信頼できる店主、手柴さんの選んだ数々の大工道具が所狭しと並んでいます。

店内及びネットショップでの販売の他、道具のメンテナンスや使い方、研ぎ方の指導などもされており、多数の宮大工や大工職、木工家の方から愛されているお店です。

大工道具の中でも使いこなすのが難しい鉋を使用し、極限まで薄い鉋屑を出すことを中心に、手道具や伝統技術の可能性を追求する会「削ろう会」では、大工道具を出展し、自身も20回以上参加されています。その技術は大工道具の講習で講師を務めるだけでなく、直接の研ぎ指導を受けに、県外からも多くのお客さんがいらっしゃるそうです。

詳しい内容は公式HPをご覧ください。また、お問い合わせ等がございましたら、左記連絡先までご連絡下さい。

伊万里木材市況

【ヒノキ】

令和2年3月現在

長さ	径級 (cm)	等級	高値 (円/m ³)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4 m	16 ~ 18	直	13,900	多い	普通	普通
	16 ~ 18	小曲り	12,800	多い	普通	普通
	20 ~ 22	直	13,200	多い	普通	普通
	20 ~ 22	小曲り	11,500	多い	普通	普通

【スギ】

長さ	径級 (cm)	等級	高値 (円/m ³)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4 m	18 ~ 22	直	12,900	少ない	多い	多い
	18 ~ 22	小曲り	12,000	少ない	多い	多い
	24 ~ 26	直	12,800	少ない	多い	多い
	24 ~ 26	小曲り	12,000	少ない	多い	多い

森林・山村多面的機能発揮対策普及セミナー

『森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業』（以下、多面的事業）は、地域住民や森林所有者、NPO法人、民間団体などが行う里山林の保安全管理や森林資源利用の活動を支援する為に平成25年から始まった事業です。

令和2年2月6日、『森林・山村多面的機能発揮対策普及セミナー』が東京で開催されました。この普及セミナーは全国で当事業を行っている団体の活動事例の紹介や協議会活動の情報共有を目的としているもので、当日は基調講演、活動発表、パネルディスカッションが行われました。

基調講演では、東京大学大学院 農学生命科学研究科附属演習林 蔵治光一郎教授が「森林と災害 森林ボランティアの観点から」をテーマに話されました。東京大学の演習林は全国に7か所あり、その中で2019年に台風被害にあった千葉演習林や秩父演習林の被害状況について解説し、また、団体の森林づくりの目的によって活動内容は異なっていくため、模範解答がないのが森林ボランティア活動だということをデータを基に話されました。

活動発表では全国で3団体が選ばれ石川県で活動をされている「城山瀬波の会」の廣崎氏、奈良県で活動をされている「春日山原始林を未来へつなぐ会」の杉山氏、長崎県は「現川里山保全の会」高松氏の発表となりました。

「現川里山保全の会」の高松氏の発表では活動場所の概要、活動のきっかけ、活動の様子等を話されました。当事業を活用して、東屋や炭焼小屋、丸太ベンチ等の設置や散策路を開設し、現在では現川森林公園となっています。公園では平成27年度から炭焼きや自然体験会、サマーイベントの開催等幅広く活動を広げ、今では様々な人達が楽しむことができる交流拠点となり森に人が集う場所となったこと、またこの事業を振り返り、人との出会いがこの活動を後押ししたと発表されました。



「現川里山保全の会」の活動発表

パネルディスカッションでは、『(1) モニタリング調査の目標を効果的に設定するにはどのようにしたらよいか』、『(2) 森と人とのつながりなど、森林整備以外の多面的機能をどのように評価していくか』をテーマにコーディネーターの岩手大学 農学部の山本信次教授、パネリスト5名によって行われました。モニタリングで団体の活動が明確になることで活動意欲が向上したことや森と人とのつながりをチェックシートをもとに評価してみてもどうか等の意見が聞かれました。



パネルディスカッション

森林・山村多面的機能発揮対策は、森林の整備から様々な形で森と人をつなぐ段階にきており、これからの森林での取り組みが楽しみです。

(長崎森林・山村対策協議会)

長崎の林業 4月号 第775号
 編集・発行 長崎県林政課
 住所：長崎県長崎市尾上町3番1号
 電話：095-895-2988
 ファクシミリ：095-895-2596
 メールアドレス：
 s07090@pref.nagasaki.lg.jp